土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　その他河川　東川　砂防事業に伴う設計業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県竹原市福田町　地内			**北緯**	34° 20′ 44.0636″
発注機関	広島県西部建設事務所東広島支所			**調査期間**	2023年　7月 11日 ～ 2023年　7月 13日	**東経**	132° 57′ 30.2782″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 39.15m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 37°
総削孔長	6.00m					**使用機種**	**試錐機**：東邦地下工機　DO-C **エンジン**：ヤンマー　NFD-12　**ポンプ**：東邦地下工機　BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	38.85	0.30		シルト質砂		暗褐			新生代第四紀	表土に相当する。暗色が強く草根を混入する。砂は細中砂からなる。	
1	37.25	1.90		強風化花崗岩（シルト混じり砂）		黄褐			中生代白亜紀	シルト質砂からなり、土壌化の進んだ強風化土とみられる。 砂の粒度分布は悪くない。 全体に均質で異質な礫分を含まないこと、貫入試料には不明瞭ながら岩組織を認めることから強風化土と判定したが、未固結堆積層の可能性を完全に否定するものではない。 貫入試料の含水は低い。 【DL級岩盤、緩い砂質土に相当する】	
2	36.25	2.90		強風化花崗岩		灰褐					
3	34.90	4.25		風化花崗岩		淡灰褐				岩組織を明瞭に認める。 コアは土棒状を呈す。 少しの固結度を残し、かなり強く押すことで崩しうる。 カッターの刃先で突けば薄く崩れる。 【DL級岩盤、緩い砂質土に相当する】	
4	33.15	6.00		花崗岩		淡桃灰				コア肌の非常に粗い、ごく短柱状コア主体。 岩芯風化により軟化するが、指圧により崩すことは不可能な程度に固結している。 割れ目は低角度のものが発達する。 3.9m付近より若干岩質が向上する。 【CL級岩盤、軟岩Iに相当する】	07/13 5.60
5										L=20～30cmの柱状コアと10cm前後の短柱状コアが不規則に繰り返す。 弱く岩芯風化しており、コア形状に比して少し脆い印象がある。 コア肌も滑らかとは言い難い。 割れ目には低角度のものと70° 程度のものがあり、後者に沿って角礫化・砕片化が認められる。 GL-4.70m付近、一時的に全漏水する。 【CM級岩盤、軟岩IIに相当する】	
6											
7											
8											
9											
10											
11											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
12	1.15	3	4	5	12/300		
	1.45						
20	2.15	5	7	8	20/300		
	2.45						
188	3.00	50/80			50/80	80	
	3.08						
375	4.00	50/40			50/40	40	
	4.04						
	5.00	貫入不能			50/0		
	5.00						
750	6.00	50/20			50/20	20	
	6.02						

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験：

原位置試験：

削孔月日：7/11、7/12